


2023年1月17日

学位論文審査並びに最終試験結果報告書

大学院歯学研究科長 殿

主査 高橋 伸彦 

副査 會田 英紀 

副査 豊下 祥史 

今般 山中 大寛 氏 にかかわる学位論文審査並びに最終試験を行い下記の結果を得たので報告する。

記

- 1 学位論文題目 Oral Assessment Guideによる口腔機能評価合計得点と介護福祉施設入居者の肺炎発症の関連 -COVID-19流行前の状況において-
- 2 論文要旨 別添
- 3 学位論文審査の要旨 別添（様式第12号）
- 4 最終試験の要旨 別添（様式第13号）

以上の結果 山中 大寛 氏は博士（歯学）の学位を授与する資格のあるものと判定する。

最終試験（学力の確認）の要旨

主査 高橋 伸彦



副査 會田 英紀



副査 豊下 祥史



氏 名 山 中 大 寛


以下本文（10行目から200字以内）

学位論文の内容は既に英文誌に公表されている。そのため、英語論文を参考にしつつ、主に学位論文の内容について試験を行った。口頭試問では、我が国の現状に則した結果の解釈や、歯科領域における専門用語（口腔健康管理、口腔機能管理、口腔衛生管理）の正確な使い方などを中心に学力を確認した。それらに対する申請者の対応はしっかりとしており、見識も十分に備わっていることから、学位取得に向けての学力は満たしているものと判断した。

学位論文審査の要旨

主査 高橋 伸彦 

副査 會田 英紀 

副査 豊下 祥史 

氏 名 山 中 大 寛

学位論文題目 Oral Assessment Guide による口腔機能評価合計得点と介護福祉施設入居者の肺炎発症の関連 -COVID-19 流行前の状況において-

以下本文（15行目から1000字以内）

介護老人福祉施設の入所者は肺炎に罹患するリスクが高い。一方、口腔内の状態が肺炎の発症に関連することも知られている。申請者は、そのような入所者において、一般医療者でも評価が可能な口腔機能スケール（Oral Assessment Guide, OAG）が肺炎発症の予測に有用かどうかを検討した。その結果、OAGの合計得点が1点上がるごとに1年後の肺炎発症オッズ比が2.29倍となることを示すことができた。不幸にして本研究開始後にCOVID-19の世界的な流行が始まり、症例の更なる集積は難しくなってしまったが、本研究では一定の結論を出すことができています。

論文の趣旨や論理展開は明確であり、いくつかの改訂を経て、最終原稿は学位論文としての要件を満たすものとなった。